

ベストクラス候補選定理由書

作成者：藤島 千絵, 辻 留奈, 新濱 由梨, 浅海 真弓, 岡田 雅弘

科目名称 学習指導と学校図書館		(担当教員名： 福原 優子)
課程： 学部	開講時期： 前期	
授業形態： 講義・演習	授業規模： 31～80人	
インタビュー対象教員名 福原 優子 (実施日時：令和元年7月25日 15:10～16:00； 実施場所：総合研究棟3階小会議室)		
インタビュー対象受講者名 長谷川 未来, 藤村 美穂 (実施日時：令和元年7月25日 15:10～16:00； 実施場所：総合研究棟3階小会議室)		
<p>選定理由</p> <p>授業者へのインタビューから (授業における工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現場で司書教諭をしていた経験から「現場の生の様子」を伝えながら、有効な手法や資料を紹介した。また実際の授業も疑似体験できる授業構成とした。保護者や子どもの信頼を得るのは授業に取り組む教師の姿勢である。常々、授業改善を意識しながら準備を進めている。 ・新しい学習指導要領では、図書館を利用して学習を発展させることが多く明記されている。本講座では、子どもたちが図書館資料を活用して学習を進めるときに、有効な情報や方法を的確に伝えられる司書教諭としての力量形成を目指している。そのため、演習として学生にも本を紹介するブックトークを体験させるようにした。「現場で生きる力」の育成をねらいとし、教科の授業で生かされるテーマを各自で決め、ブックトークを行った。 ・学生もとても意欲的で向上心がある。他の学生のブックトークを聴いてさらに工夫を凝らす学生も多く、力量も目に見えて向上する。実際に現場で使われている教材の中から調べ学習にふさわしい単元を選び、そこからテーマを決め、資料を探す。聞き手を意識しながら資料の有効な部分を探し、ブックトークとして完成させる。この過程が現職となったときの教材研究へとつながると考えている。 ・受講生同士の中での発表なら、お互いの良さを学ぶだけでなく、失敗を経験することも学びになる。実際に現場に立った時に自信を持ち、さらに工夫も加えながらの実践につながることを期待し、受講生が増えても全員に発表する機会を与えている。 <p>受講生へのインタビューから</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めてブックトークに挑戦しストーリー仕立てにして試みた。4回生の発表から学ぶことは多く、自分の発表の体験に加え、実際に子どもたちへ実践するときの参考になると思った。 ・大学の図書館だけでなく、公共の図書館にも足を運び、たくさんの本の中からブックトークを仕上げていくことに時間を費やし、授業外で学ぶことも多かった。 ・実習を経験した後に発表される3回生、4回生のブックトークは、子どもたちの反応も予想したり、考慮したりしたもので大変刺激を受けた。その後の自身の実習にも役立った。 ・授業ももちろんだが、それ以上に先生が魅力的だった。テンポやトークがとても安心でき、実際に学校現場での体験談も織り交ぜて話してくださった。ブックトークを通して教師として前に立った時の見せ方、注目の集め方、配慮などが学びとれた良い講義だった。一人ひとりの受講生を大切にしてくれる先生だった。 <p>以上のことから、本授業を平成30年度「ベストクラス」の候補として選定する。</p>		